

平成28年5月20日

「浜田港拠点化形成研究会」の設立趣旨

島根県が管理する重要港湾「浜田港」は明治32年の開港以来、木材輸入を中心に県西部の内外貿易物流拠点として発展してきた港湾である。

現在では、韓国釜山港との間に国際定期コンテナ航路が、ロシアのウラジオストク港との間に国際定期RORO船が就航し、山陰道の供用区間拡大や臨港道路福井4号線の開通(平成29年度)により、今後増々、浜田港周辺地域において効率的な輸送ネットワークが形成されることから、更なる利用促進が期待されるところである。

一方で、リーマンショック以降、コンテナ貨物は緩やかに回復したが近年は横ばい状態が続いている。またロシア向け中古自動車輸出は、ロシア経済の低迷やルーブル安の影響を受け全国的に減少傾向が続き、貨物量の確保が課題となってきた。

このような状況のなか、貿易貨物の集荷については、浜田港振興会を中心に、船舶代理店等と連携して県内外企業へのポートセールスを行い、新規開拓や潜在貨物の掘り起こしを行っている。また、コンテナ貨物補助金に、東南アジア向け貨物への加算など助成制度の充実や、ロシア中央部への鉄道等との接続によるトライアル輸送など、新たな市場の獲得による貨物拡大に取り組むこととしている。

また、浜田港は急成長するアジアのクルーズ市場に近く、石見圏域には、世界遺産や日本遺産、石見神楽に代表される伝統芸能など、国内外に誇る地域資源が存在している。これらを観光素材として商品化し、災害にも強い日本海側の良港「浜田港」とともに国内外のクルーズ船社・旅行会社へPRすることにより積極的なクルーズ船誘致を開始し、寄港数の増加に繋げていく。

以上のことから、発展著しいアジアに近い「浜田港」の強みを生かして、石見から出雲、広島県北部に至る広域的な産学官が連携し、浜田港への集貨対策及びクルーズ客船誘致対策に取り組むことを目的とした「浜田港拠点化形成研究会」を新たに設立するものである。

なお、本年夏供用するコンテナ船大型化対応岸壁や平成29年度末供用予定のガントリークレーン、本年2月の「みなとオアシス」登録なども好機ととらえ、浜田港の更なる物流・人流の拠点化形成を目指すものである。